

ふれあい長寿津

生きがいを見つける人生の学校 「ふれあいカレッジ」

平均年齢72歳の250人ほどのメンバーで構成されている「ふれあい長寿津」。支え合いと触れ合いの地域づくりをモットーとし、住みよいまちづくりを目的に平成8年に設立されました。

その活動として、「ふれあいカレッジ」を開設し、学習を通じた仲間づくりに取り組んでいます。講座では、市長をはじめ大学の先生、法律や医療の専門家などを講師に、学習会、講演会、実習、フィールドワーク、スポーツ、ものづくりを通じた交流を行っています。また、その場の学びだけで終わることなく、その講座で出来た仲間のつながりを大切に、講座受講後「ふれあい長寿津」のメンバーとなり、清掃活動、小学生との昔遊び交流など幅広い分野にわたり活動に取り組んでいます。

自らもふれあいカレッジ卒業生で事務局員の高松さんは、70歳で仕事を辞めた後、急に居場所がなくなったと感じ、毎日どのように過ごすかが悩みだったそうです。10代で青森から東京に出て就職し、その後三重県桑名市に。3年前に津市に移り住んだ時、地域とのつながりはなかったのですが、半年間の講座を通してできたつながりをさらに深めていくふれあいカレッジの活動に共感し、参加することにしたそうです。

「ここで知り合った新たな仲間と、誕生会をしたり、ボランティアをしたりしています。参加しなければいけない活動ではなく、みんなが好きで集まっている。こんな活動を探していたんです」と話す高松さん。生涯学習の場が「生涯の絆づくり」の場になっています。



ふれあいカレッジ講座の様子

いくつになっても、誰かのために 「昔遊び交流活動」

「いくつになっても、人とつながり活躍したい」。このように考える高齢者は少なくありません。「ふれあい長寿津」では、生きがいとは、社会参加や社会貢献を通じた人との関わりであると考えています。そこで、地元企業より小豆を提供してもらい、お手玉を作り、市内の小学校や幼稚園へ贈っています。さらにそのお手玉を使って、小学校低学年を対象とした「昔遊び交流」の訪問をしています。



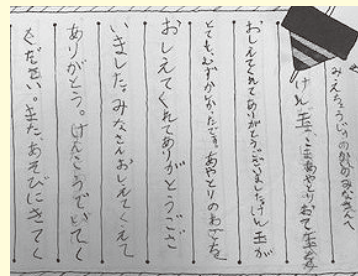
小学校・幼稚園に送るお手玉を作る皆さん

今年80歳になる岡田さんも「ふれあいカレッジ」を卒業後、この活動に参加しています。誰かと触れ合うきっかけ作りや「老後に、体力的にも自分にできる奉



小学校での「昔遊び交流」の様子

仕活動を」という思いで、活動を続けています。活動に参加して、友達の輪が大きく広がり、何よりも長い間同じ団地に住んでいたにもかかわらず、ほとんど話したことがなかった人と初めて交流することもでき、改めて出会いの大切さを感じたそうです。「地元の小学生との交流では、昔遊びや、さつまいもを使った芋きんちゃく作りなどを通して、いろいろなことを教えていく中で、まるでこちらが遊んでもらっているかのように、元気もらっています。中には年賀状をくれる子どももいます」と、岡田さんは話してくれました。



児童からのお礼の手紙

なかなかこの場所に集まることができない人は、自宅でお手玉を作ってこの活動に参加してくれているそうです。